

## 8月5日（土）コッツウォルズの村巡り

この日はコッツウォルズの村巡りを楽しみました。まず訪れたのは、ガイドブックには載っていない、穴場の「スタントン」村。人口は約200人、古くは羊毛産業で繁栄した村でした。中世の街並みをそのまま残した歴史のあるスタントンの古い街並みは、舗装された道路以外は500年前の景観をほぼそのまま残しており、まるで時間が止まったままでのようでした。



続いて、スタントン村の近く、「ブロードウェイ」へと向かいました。お土産屋さんや、地元の芸術家で作った一点物を売るお店、地元のフルーツや野菜などを売るデリカテッセン等々、沢山の店がライムストーン製の街並みに並んでいました。とても洗練されたブロードウェイは、どの場面を切り取っても美しい街並みでした。30分程、英国人のクラスアシスタントも一緒に、街中を散策しながらショッピングを楽しんでいました。特に人気があったお店は、担当の先生が薦めてくださったイギリスの伝統的なお菓子「Fudge」の専門店でした。家族のお土産としてファッジを購入した生徒もいました。



その後、「ボートン・オン・ザ・ウォーター」を訪れました。コッツウォルズのベネツィアと言われている「ボートン・オン・ザ・ウォーター」は、村の中心に小川が流れ、夏にはピクニックに来る家族連れや観光客で賑わうそうです。小川沿いにはたくさんのティールームとお土産屋さんが並んでおり、雨だったにも関わらず、イギリス人だけでなく、海外からの観光客も多くいました。ボートンと言えば、「ティールーム」。カフェより、こじんまりした可愛らしい雰囲気、手づくりのイギリスの伝統的なケーキや軽食を販売していました。自由時間になると、お茶を求めて一目散の生徒や、お土産を求めてお店に駆け込む生徒など、それぞれの目的地へあつという間に消えていきました。ティールームを覗いてみると、「クリームティー（紅茶とスコーンのセット）」を前日自分たちで作ったものと食べ比べたり、定番の“Victoria Sandwich Cake”、“October Cake”、“Upside-down Pineapple Cake”などを試す生徒の姿が見られました。

最後に訪れたのは、「バイブリー」。この村は英国で有名なデザイナー、ウィリアム・モリスが「イギリスで一番美しい村」と称賛した村で、17世紀に建てられた家並みはコッツウォルズのカレンダーや本の表紙でお馴染みの景色だそうです。小川にはニジマスが泳いでいて、鴨や白鳥も水浴びをしていました。日本ではめったに見ることのできない白鳥を目の前に、生徒たちはとても感激して沢山の写真を撮っていました。また、アーリントンローと呼ばれる築700年以上にもなるコテージの前で記念撮影をしたり、木陰が涼しい小路を散歩したり、絵本の世界のような美しさに、驚いているようでした。

